



第6回唐梅館絵巻は9月24日、東山地域で催され、華やかな時代絵巻が展開されました。今回の唐梅館城主・千葉胤胤公役は、俳優の野村将希さん。騎馬武将を含む総勢255人を従え、長坂商店街から唐梅館総合公園までを勇壮に練り歩きました。軍議では、千葉一族が天正18(1590)年、小田原参陣で豊

400年の時空超え甦る



臣秀吉に従うか否か決した場面を再現しました。また、婦人会による「くるくる踊り」パレード、商工会青年部の「ふるさと磐井ワイわいクイズ」、仙台東すずめ踊り、時の太鼓、小鯖神止まり七福神舞などが祭りを盛り上げ、約1万3000人の来場者は盛りだくさんの歴史絵巻を満喫していました。

上 迫力ある総大将・千葉胤胤役を演じた野村さん
左 芝生の上で軽快な舞を披露した仙台東すずめ踊り
下 クイズに沸く来場者



世界遺産を目指して

世界遺産登録までの流れは

世界遺産講座Vol.5

骨寺村荘園遺跡は、「平泉—浄土思想を基調とする文化的景観」のうちのひとつとして、平成20年の世界遺産登録を目指しています。今回は、登録までの流れを紹介します。

①国として世界遺産条約を締結します。日本は、平成4年に締結国となりました。

②締結国は、今後5年から10年の間に世界遺産登録しようとする物件を、ユネスコの暫定リストに登録します。

平泉の文化遺産は13年4月、暫定リストに登録されました。この時点では、骨寺村荘園遺跡は平泉の文化遺産の中に含まれておらず、約2年後の15年6月、その中に含まれるようになりました。(※)

③締結国は、暫定リストのうち、条件の整ったものをユネスコに推薦します。

日本では、国として平泉の文化遺産を世界遺産に推薦することを18年9月に決定し、19年1月ごろにはユネスコへ推薦する予定です。

④ユネスコでは、推薦された物件を調査します。世界文化遺産の場合はイコモス(国際記念物遺跡会議)、世界自然遺産の場合はIUCN(国際自然保護連合)といった専門機関が現地調査を行います。

平泉の文化遺産の現地調査は、19年の秋ごろに実施される予定です。

⑤年に1回開催される世界遺産委員会で、世界遺産登録の可否を決定します(世界遺産の登録要件については、広報9月15日号をご覧ください)。

順調に進めば、平泉の文化遺産、すなわち骨寺村荘園遺跡は、20年7月ごろには、世界遺産となります。

※世界遺産は、同じ内容の遺産を世界遺産にしない傾向があります。これまでの調査研究で、平泉の文化遺産は、寺院だけでなく、寺院を支えた荘園である骨寺村荘園遺跡や、奥州藤原氏と関連する遺産などが多くあることから、一つのまとまりとして世界遺産を目指すこととなりました。

新市1周年に健脚競う

第25回一関国際ハーフマラソン



第25回一関国際ハーフマラソン大会は9月24日、市役所本庁舎前を発着点とするコースで行われました。新市誕生1周年を記念した今大会には、ハーフマラソン(21・0975キ)、10キ、5キの男女、年齢別の26種目に、国内外の招待選手を

また、一関はり灸マツサージ師会によるマツサージサービスも行われました。本庁舎前特設会場で行われた表彰式では、種目ごとの上位入賞者に賞状と賞品が授与されたほか、高齢・遠距離・25回連続出場者にも表彰されました。



また、海外からのランナーも大島めぐみ選手(ハーフ女子30歳以上)の部に11分30秒の大会新記録で優勝

場者にそれぞれ記念品が贈られました。また、海外のマラソン大会への派遣選手を決める抽選会も行われました。

さわやかな風が吹き抜ける中、一関路を精いっぱい駆け抜けた選手の皆様は、笑顔でスポーツの秋の一日を満喫していました。



見事当選。レース後のお楽しみ、海外のマラソン大会への派遣抽選会



ゴール目指して、市役所本庁舎前を一斉にスタート

ははじめ1155人が参加、晴れ渡る秋空の下、入賞を目指し力強い走りを見せる選手や仲間同士励まし合い一緒に走る選手、「頑張れ!あと少し」という沿道からの盛んな声援に手を振り応えながら走る選手など、自らの年齢や体力に合わせた走り方でゴールを目指しました。

レースを終えた選手には、地元産米のおむすびと、一関特産の曲りねぎをふんだんに使った「やわらか美人汁」が振る舞われ

世界的名ランナーが記念講演

大会前日の9月23日、第25回大会と新市誕生1周年を記念して、フランク・ショーターさん(58)によるスポーツ講演会が行われました。ミュンヘン五輪(1972)金メダルなど1970年代のマラソン界で圧倒的な強さを見せたショーターさんは「~米国ポルター市からの報告~高地トレーニングとトップランナー」の演題で、マラソン競技における高地トレーニングの効果や、集中力など精神面の重要性を、自らの豊かな経験や科学的な実証などを交えて語り掛けました。



息の合った振り付けを交え「ジュピター」などを熱唱した、千厩小学校PTAコーラスの皆さん

美しいハーモニーの祭典

第20回コーラス両磐フェスティバル

フエスティバル(両磐地区芸術文化団体協議会、市教育委員会主催)は9月24日、一関文化センター大ホールで開催され、両磐地区の29団体、約450人が出演しました。

混声、女声、男声、少年少女の年齢も人数もさまざまなグループが、練習を重ねてきたクラシックから童謡、唱歌、民謡、ポピュラー音楽まで、バラエティに富む曲目を披露。ホールには美しいハーモニーが響き渡りました。